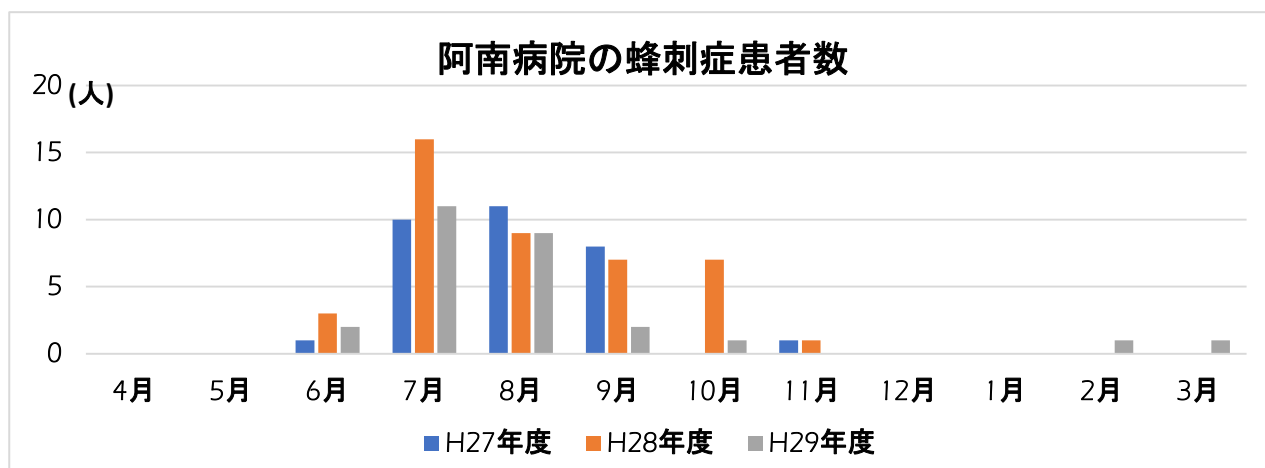


ハチ刺されとアレルギーとエピペン

ハチ刺されとアレルギー

夏から秋にかけてはハチ刺され(蜂刺症)が多い時期です。全国的に7月～10月に多く、当院では6月～9月に集中しています(図1)。ハチ毒の毒性はハチ毒自体の直接作用とアレルギー作用の2種類があり、アレルギー作用はハチ毒の量に関係なく発症します。全身におこる急激なアレルギー作用はアナフィラキシーと呼ばれ、国内では毎年死亡者が発生しています。当院でも死亡者はいませんが毎年数名のアナフィラキシー患者が発生しています。息苦しさ・全身のかゆみ・気分が悪いなどの症状がみられた場合はすぐに医療機関を受診してください。

(図1) 阿南病院の蜂刺症患者数



エピペンとは？

アナフィラキシーのとき、治療を受けるまでに症状の進行を一時的に和らげる治療剤がエピペン®です。アナフィラキシーにかかったことがある方、アナフィラキシーを発症する危険の高い方(林業従事者等)に処方され、患者さん御自身で使用していただくため簡単に扱えるようになっています(図2)。



(図2) <https://www.epipen.jp> より

御自身で使えない状況でも医師の指示に基づき救急救命士の方が使用することができるため、エピペンを処方されている方は普段からの携帯をお勧めします。

なお、エピペンは使用期限があります。使用期限が切れる前に医療機関を受診して新しい製品の処方を受けてください。阿南病院でもエピペンの処方を行っております。院内在庫に限りがあるため、受診前に電話で御予約をお願いいたします。

人もハチも活発になる夏秋にむけてしっかりと準備をしていきましょう！